

第8章 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

【評価の視点】

- ・産・学・官等との連携の方針の明示
- ・地域社会・国際社会への協力方針の明示

《社会連携について》

- 1) 「学校法人順天堂社会連携推進室運営規程」において、本学の教育・研究成果及び人的資源等を活用して地域社会との連携活動を推進し、地域社会の持続的発展に貢献するとともに、本法人における教育研究活動の活性化を図る方針を明示している。また、法人の直轄組織として「社会連携推進室」を設置している。

(資料8-1 学校法人順天堂社会連携推進室運営規程)

- 2) 社会連携に関する具体的な事業計画の策定及び各キャンパスにおける取組状況等の点検・評価等については、学長を委員長とする社会連携推進委員会で審議している。

(資料8-2 社会連携推進委員会議事録)

- 3) 学長は、本学の社会連携推進に関して「大学の有する教育・研究成果、人的資源等を最大限に活用し、地元自治体等の意見や住民のニーズを積極的に取り入れ、自治体と大学の将来にわたるパートナーシップを確立し、開かれた大学としてより一層社会の持続的発展に貢献していく」とのメッセージをホームページ上で発信している。

(資料8-3 社会連携推進室ホームページ「学長からのご挨拶」)

《産学官連携について》

- 1) 「順天堂大学産学官連携ポリシー」において、教育と研究という基本使命に加えて、研究成果の社会還元を第三の使命とし、本法人における産学官連携活動の活性化を図る方針を明示している。2015(平成27)年8月1日付けで、研究推進支援センターを研究推進センターに改称するとともに、同センター内に「産学官研究連携推進室」を設置し、推進・支援体制を強化した。また、同センターの事務連絡会において、各種連携活動の進捗状況、評価及び改善について検証している。

(資料8-4 順天堂大学産学官連携ポリシー)

(資料8-5 順天堂大学研究推進センター運営内規)

- 2) 臨床研究については、臨床研究支援センターを設置し、「順天堂大学臨床研究支援センター運営内規」において、本学における研究成果に基づき、企業・研究機関等と連携して疾病、負傷等に対する新しい予防・診断・治療法や医薬品・医療機器等を開発し、社会に還元するために「健康研究(Health Research)」を推進するという方針を明示している。また、企業や研究機関等との共同研究を推進する部署としても臨床研究支援センターは、同センターの月例会議において、各種臨床研究等の進捗状況、評価及び改善について検証している。なお、連携協定締結先の企業・団体数は、延べ19機関となっている。

(資料8-6 順天堂大学臨床研究支援センター運営内規)

(資料8-7 連携協定締結先一覧)

《他学との連携について》

- 1) 他学との連携については、他の大学及び高等学校との間で教育・研究等に関する連携協定を個別に締結し、そのなかで連携・協力に関する具体的な方針を定めている。なお、連携協定

第8章 社会連携・社会貢献

締結先の数は、大学間は延べ42校、高大間は2校となっている。

(資料8-7 連携協定締結先一覧)

《国際交流について》

1) 国際交流については、「順天堂大学国際化ビジョン」(2014(平成26)年度制定、2015(平成27)年度改正)において、(1)知性と教養溢れ、発信力と行動力のある国際性に富んだ人材の育成を推進する、(2)新たな知を創造する国際的な研究拠点形成に取り組む、(3)上記(1)と(2)を確実に実現するための学内組織体制や教育研究環境を整備するとの基本方針を定めている。この基本方針に基づく行動計画として、1)教育活動の国際化、2)研究活動の国際化、3)学内体制の国際化、の3項目を具体的に定めている。また、教員及び学生の国際交流や国際共同研究・教育等具体的な業務については、「順天堂大学国際交流センター運営規程」に基づき「国際交流センター」がその役割を担っており、毎月開催されるJUIC(Juntendo University International Center)教育委員会において、それらの検証を行っている。

(資料8-8 順天堂大学国際交流センター運営規程)

(資料8-9 順天堂大学 国際化ビジョン)

《各学部及び研究科における社会との連携・協力に関する方針について》

1) 各学部及び大学院研究科は、地域社会・国際社会への協力量針を個別に定めており、それぞれのシラバス、学生募集要項やホームページ等に公表・明示している。

(資料8-10 各学部・研究科の地域社会・国際社会への協力量針)

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

【評価の視点】

- ・教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
- ・学外組織との連携協力による教育研究の推進
- ・地域交流・国際交流事業への積極的参加

《社会連携について》

1) 自治体との連携については、東京都文京区をはじめ、千葉県内では佐倉市、成田市、酒々井町、白井市、印西市、習志野市、栄町、浦安市の8自治体、静岡県三島市、埼玉県川口市及び愛知県東郷町と連携協定を締結し、教育の振興、スポーツの発展、健康支援など地域社会の発展に寄与することを目的とした取り組みを実施している。

(資料8-11 自治体との連携内容一覧)

2) 連携協定を締結した自治体とは、社会連携推進室及び各キャンパスの分室が連絡を取り合い、必要に応じて連絡協議会等の場を設け、自治体の要望等に対応した。その結果、各キャンパスを拠点に公開講座等への講師派遣、自治体イベントへの参加等による地域住民との交流、地域貢献活動、スポーツ教室等の開催が活発に行われ、地域に根付いた事業となっている。

《産学官連携について》

1) 産学官連携については、2013(平成25)年度から2014(平成26)年度にかけてCOI-T(トライアル)拠点として採択された文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」の活動成果の評価が実施され、本学と立命館大学との連携拠点がCOI拠点として昇格することが決定した。本プログラム(センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム)では、ハイリスクではあるが実用化の期待が大きい異分野融合・連携型の基盤

第8章 社会連携・社会貢献

的テーマに対し、集中的な支援を行い、産学が連携する研究開発チームを形成する。2015(平成 27)年 7 月、立命館大学大阪茨木キャンパスにおいて、独立行政法人科学技術振興機構によるサイトビジット(拠点訪問)が実施され、本学及び立命館大学からプロジェクトの進捗状況について報告を行った。同年 12 月、グランフロント大阪にて拠点シンポジウム「続かなかつたあなたへ」を開催し当拠点の取り組みを一般に向けて紹介した。また 2016(平成 28)年 2 月、ロコモティブシンドローム研究用 iOS アプリ「ロコモニター」を開発し、iPhone ユーザーからデータ収集を開始した。その他、株式会社東急スポーツオアシスにてロコモ予防セミナー、東急不動産株式会社のシニアハウスにてロコモ度チェック体力測定会などを行った。

(資料 8-12 順天堂ホームページ 「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」)

2) 個別企業・団体等との間においても、次のとおり連携協定を締結し、それぞれの分野において共同研究等の取り組みを展開している。

(1) 独立行政法人理化学研究所：相互の研究能力と人材を活かし、国内外の学術及び技術の振興と有為な人材の育成に資することを目的として、連携基本協定を締結(2012(平成 24)年 4 月 26 日付)。本協定に基づき、2012(平成 24)年 8 月より理化学研究所の CAGE (Cap Analysis of Gene Expression) 法を用いたがんバイオマーカーと臨床応用に関する共同研究が実施されている。

(資料 8-13 順天堂ホームページ 「順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定」)

(2) 日立製作所：医療実績、臨床現場からのニーズと企業の総合的な技術力を結びつけることによって、医療・ヘルスケア分野の先端医療機器や情報システムなどの開発を行うことを目的として、連携基本協定を締結(2012(平成 24)年 10 月 1 日付)。基本協定に基づき、再生医療、超音波、画像診断などの分野の共同研究が 2013(平成 25)年 10 月より実施されている。

(資料 8-14 順天堂ホームページ 「順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結」)

(3) 笹川スポーツ財団：2015(平成 27)年 2 月に、スポーツボランティア養成事業に関する協定を締結した。これにより 2015(平成 27)年度から、スポーツ健康科学部のカリキュラムの一環(卒業所要単位の科目として位置づけ)として、スポーツボランティアに関する授業が開始された。

(資料 8-15 順天堂ホームページ 「順天堂大学と公益財団法人笹川スポーツ財団によるスポーツボランティア養成事業に関する協定を締結」)

(4) 花王株式会社：「健康を科学する」という共通テーマのもと、両組織の連携・協力関係を推進するために、研究包括契約を締結(2015(平成 27)年 6 月 2 日付)した。本協定に基づき、互いの研究知見や施設を活用して、オープンイノベーションを推進し、医療・健康分野における基盤研究の連携を強めていく。現場のニーズに即した革新的な技術開発とその早期実用化を推進し、グローバルなイノベーションの創出を目指す。

(資料 8-16 順天堂ホームページ 「順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結」)

(5) セントラルスポーツ株式会社：病後及び術後の体力・機能回復や運動指導、病気予防及び

第8章 社会連携・社会貢献

原因が良く判っていない疾患などに対する対策などを協同で進め、医療とスポーツの連携・融合を図ることにより、健康長寿社会の実現を目指すことを目的として、包括的連携協定を締結（2015（平成 27）年 7 月 7 日付）した。推進体制として「連携連絡協議会」を設置し有益な協同事業について情報交換を行うとともに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた国際的展開を期して、人材育成の推進や相互支援、施設の相互利用を通じた包括的連携を強化・推進していく。

（資料 8-17 順天堂ホームページ「学校法人順天堂とセントラルスポーツ株式会社が包括連携協定を締結」）

- (6) 東急不動産株式会社：2015（平成 27）年 10 月 29 日付で包括的連携協定を締結した。本協定により、本学と東急不動産は互いが有する資源を有効に活用し、相互の発展を通じて我が国が全世界に先駆けて直面する超高齢社会の課題を解決する新たなプログラムを構築し、健康長寿社会の実現を目指す。既に本学では、東急不動産の協力を得て、寄付講座「ジェロントロジー：医学・健康学応用講座」を設置し、学問的なアプローチから、楽しく、寛げる、動ける、語らう、食べることの可能な住空間システムのハード面・ソフト面の開発を進めている。

（資料 8-18 順天堂ホームページ「学校法人順天堂と東急不動産株式会社が包括連携協定を締結」）

- 3) 2014（平成 26）年 6 月 23 日、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の主催による「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定締結式」が開催され、連携協定の締結を行った。今後は、東京オリンピック・パラリンピック対策委員会で戦略会議を開き、オリンピック選手の育成・強化、監督・コーチ及びサポートスタッフの輩出、キャンプ地誘致活動への協力・支援などの検討を始めていく。

（資料 8-19 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定式）

- 4) 奨学目的の寄付を有効に活用した寄付講座を設置して、教育研究の豊富化や活性化を図り、人材を養成するとともに研究成果を社会に還元している。2015（平成 27）年度には、24 の寄付講座が設置されている。

（資料 8-20 平成 27 年度 事業報告書 「10. 寄付講座（共同研究講座）」）

- 5) 臨床研究については、「臨床研究支援センター」が文部科学省がんプロ養成基盤推進プラン採択事業、がん専門医療人養成コース、広島大学大学院医歯薬保健学研究科等との連携大学院を通じて医師・コメディカル・がん専門医に対する生物統計教育、臨床試験デザインに関する教育を行っている。また、多施設共同研究者主導型臨床研究の支援を行っている。

（資料 8-21 臨床研究支援センター月例会議資料（2016 年 3 月）教育・研修・コンサルティング）

《他学との連携について》

- 1) 他の大学及び高等学校との間においても、次のとおり連携協定を締結し、それぞれの協定に基づき、教育・研究等の推進に取り組んでいる。

- (1) 早稲田大学：医学と建築学の融合を図り、次世代環境医療、エコキャンパス・ホスピタル及び病院建築に関する研究を推進するため、2009（平成 21）年 3 月に研究協力協定を締結した。共同研究は主に 4 つのテーマに沿ったワーキンググループを中心に共同研究を進めている（高層病院の安全・避難、エコ技術、感染環境制御、環境発がん制御）。本学で実

第8章 社会連携・社会貢献

施している新病棟の建築に研究成果を活かすため、同大学と本学の共同研究に清水建設技術研究所も共同研究契約を締結のうえ参加している。

(資料8-22 学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書)

(資料8-23 次世代環境医療研究会組織図)

(資料8-24 共同研究契約書 (エコ技術))

(資料8-25 共同研究契約書 (高層病院の安全))

(資料8-26 共同研究契約書 (病棟の避難))

- (2) 学校法人女子美術大学：2015(平成27)年5月20日付で連携・協力に関する基本協定を締結した。同校の創立者の一人で、校主であった佐藤志津は順天堂 第二代堂主佐藤尚中の実の娘であり、第三代堂主 佐藤進の妻であった。佐藤志津が亡くなった後は佐藤進が校主・校長に就任し、その後、第四代堂主 佐藤達次郎が同校の理事長、学長を務めるなど、同校とは歴史的に強い結びつきがある。芸術・癒し・デザインの分野に秀でた同校と、医療・健康・スポーツの分野に強みを持つ本学が協定を結んだことで、ヒーリングアート・癒し・スポーツメンタルなどを切り口とした様々な分野、領域での連携協力や新たな取組みが期待される。

(資料8-27 順天堂ホームページ 「学校法人順天堂と学校法人女子美術大学が連携・協力に関する基本協定を締結」)

- (3) 星薬科大学：2015(平成27)年9月29日付で相互の教育・研究及び社会貢献活動を通して大学間交流の推進を図るため、包括的連携に関する協定を締結した。両大学の強みを活かし、教育・研究及び社会貢献活動の分野で包括的に緊密な協力関係を築き、連携を深めることにより、学生教育の質的向上、教職員の質的向上を図り、大学間の交流等を行うことで、人材の育成や教育・研究活動の充実、活力ある地域社会への貢献に寄与していく。

(資料8-28 順天堂ホームページ 「順天堂大学と星薬科大学が学術交流に関する包括的連携協力の基本協定を締結」)

- (4) 立命館大学：2015(平成27)年10月6日付で、研究・教育内容の充実と学術・文化の発展及び科学技術の高度化を図ることを目的とした学術交流に関する包括協定を締結した。両大学は現在、文部科学省と科学技術振興機構が推進する「革新的イノベーション創出プログラム」(Center of Innovation=COI)において、「スポーツ・健康」と「セルフケア・医療」の融合による健康維持・増進を図り全ての人々をアクティブな状態へ誘導する「アクティブ・フォー・オール」の実現を目指した研究を共同で進めている。今回の協定締結により、両大学の保有する教育・研究資源の更なる有効活用を図ることで、我が国の健康・幸福寿命の伸延を目指した取組みを加速させていく。2015(平成27)年11月、順天堂大学が連携協定を結んでいる東郷町主催のイベントにて、立命館大学で開発している機器を用いて実証実験を行った。

(資料8-29 順天堂ホームページ 「順天堂大学と立命館大学が学術交流協定を締結」)

- (5) カザン連邦大学・理化学研究所：2015(平成27)年10月7日付で、医科学研究及び先進医療の分野における協力覚書を締結した。この協力覚書の締結により、参加3機関の有する研究開発力、人材、臨床サンプル・情報などのリソースを活かした連携・協力を推進し、予防医療、先進医療の分野における新たな価値創造、イノベーション創出が期待される。日露両国のみならず、開発した新技術や知見を広く国際社会で実用化し、地球規模の課題

第8章 社会連携・社会貢献

解決を目指す。

(資料8-30 順天堂ホームページ 「理化学研究所およびカザン連邦大学と協力覚書を締結」)

- (6) 岡山大学：2015(平成27)年12月10日付で、包括的連携・協力協定を締結した。大学としての設置形態は異なるものの、両大学がそれぞれの強みや利点を活かして連携協力し、高いレベルの教育・研究・医療を通じて更なる人材育成と国内外での社会貢献を進めていく。当面は、研究及び産学官連携の推進及び発展に関することを主なテーマとし、相互の大学の研究体制や研究活動等について情報交換等を行い、具体的な内容を検討していく。

(資料8-31 順天堂ホームページ 「順天堂大学と岡山大学が連携・協力に関する包括的協定を締結」)

- (7) 明治大学：2015(平成27)年12月18日付で、教育・研究活動の交流と連携の推進を目的とした大学間交流に関する包括協定を締結した。本学と明治大学は、2002年7月から首都大学院コンソーシアムでの単位互換協定や教員の連携による共同研究などの取り組みを行っている。本協定の締結により、これらの連携をさらに推進・発展させ、教職員及び学生の交流や施設の相互利用などを通じて両大学の教育研究力のさらなる向上をはかるとともに、医学部を有する本学と法・理工・農学部を有する明治大学が互いの特長を活かして社会に貢献していくことを目指す。

(資料8-32 順天堂ホームページ 「順天堂大学と明治大学が包括協定を締結」)

- (8) 東京藝術大学：2016(平成28)年3月23日付で、教育研究・人材交流・社会貢献・国際交流等の一層の充実と質の向上を図り、学術研究の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とした連携・協力に関する包括協定を締結した。音楽セラピー等の共同研究の推進や、解剖・病理分野と美術解剖学における連携、順天堂医院におけるホスピタルアート・ヒーリング アートの展開など、両大学の保有する世界最高水準の教育・研究資源の有効活用を図るとともに、「医学・医療と芸術の融合」による相乗効果を最大化することで、医学・芸術両分野のさらなる発展を目指す。

(資料8-33 順天堂ホームページ 「順天堂大学と東京藝術大学が連携・協力協定を締結」)

- (9) 大学院の連携について本学大学院医学研究科は、従来より複数の大学院と、両大学院間の交流と協力を推進し、教育研究の充実を図るため、大学院学生が相互に必要な研究指導を受けることを目的とした特別研究学生交流協定を締結している。2015(平成27)年11月11日に東京大学、2016(平成28)年3月25日に横浜市立大学大学院医学研究科と、それぞれ特別研究学生交流協定を締結した。

- (10) 高大連携については、2015(平成27)年3月に昭和第一高等学校と、同年8月に神田女学園高等学校と、それぞれ教育提携協定を締結した。相互の交流を通じ、生徒の視野を広げ学習水準を高めるとともに、教育内容等への理解を深めるなど、大学教育と高等学校との連携を図り、互いの教育の更なる活性化を目指していく。

(資料8-34 順天堂ホームページ 「昭和第一高等学校と教育連携協定を締結しました」)

(資料8-35 順天堂ホームページ 「神田女学園高等学校と教育連携協定を締結しました」)

《国際交流について》

1) 国際交流については、大学を挙げて積極的に推進し、2016(平成 28)年 3 月末現在の大学間における国際交流協定校は、17 カ国/地域・46 校となっている。講座・研究室を通じて、海外研修が可能な海外交流校は 24 カ国/地域・165 校である。

(資料 8-36 大学協力協定締結状況)

(資料 8-37 講座・研究室を通じての紹介が可能な海外研修施設一覧(2015 年版))

2) 学外組織の JICA や日本皮膚科学会等の支援を得て、タイ国・皮膚病学ディプロマコース派遣事業を Institute of Dermatology (IOD) (タイ・バンコク)において 1976(昭和 51)年から開催している。現在 11 ヶ月のコースで運営され、これまで約 950 名の修了者・専門医を輩出している。

3) 海外の大学等との連携活動実績は、次のとおりである。

(1) 北京大学—順天堂大学国際学術シンポジウムを、国際交流協定に基づいて実施している。両大学から精鋭の研究者が国際的にトップレベルの学術的交流を果たし、両大学での共同研究を更に進展させるため、2010(平成 22)年及び 2011(平成 23)年に順天堂大学で、2012(平成 24)年及び 2015(平成 27)年に北京大学でシンポジウムを開催している。次回は 2016(平成 28)年度に順天堂大学での開催を予定している。

(資料 8-38 2011 2nd International Academic Joint Symposium

Juntendo University-Peking University)

(2) 学内・学外の臨床医並びに研修医とともに、進歩の極めて早い現代医学の最先端情報を学ぶ目的で、2010(平成 22)年から毎年、アジア太平洋メディカルフォーラムを開催している。これまで「糖尿病の病体と膵β不全」、「成人病は胎児期から始まる」—小さく産んで大きく育てるのは、成人病のハイリスク」、「肺癌の分子標的治療」、「歴史的局面を迎えた肺癌外科治療」、「大腸癌の外科治療」、「病院の国際認証 (JCI) について」、「医学部の国際認証 (WFME) について」、「留学生(学生、大学院生、研究者等)の交流・共同研究～過去の整理と今後の展望～」、「国外機関との協力協定が持つ可能性とその運用」をテーマとしたフォーラムを開催した。

(資料 8-39 第 6 回アジア太平洋メディカルフォーラムプログラム)

(3) 東京医科歯科大学との共同プログラムとして、両校の留学生の日本文化交流や日本語教育について 2013(平成 25)年から相互に協力体制を整備し実施している。

(資料 8-40 東京医科歯科大学 順天堂大学 餅つき大会 案内)

(4) ドイツ・連邦参議院議長夫人一行やルーマニア・ルーマニア厚生大臣一行、ロシア連邦・ドヴォルコーヴィチ副大統領一行や中国・国家衛生和計画生育委員会副主任一行等の表敬訪問が 2015(平成 27)年度で 24 件あった。

(資料 8-41 平成 27 年度 表敬訪問・行事一覧)

4) 2014(平成 26)年度に、外国人学生及び短期研修者の獲得を視野に入れ、従来の英語版ホームページ(トップページ)のリニューアルを行った。順次既存の内容についてもデザインを含めて更新を進めたところ、本ページ公開直後より、短期研修を希望する海外の学生・医師からの本学に関する照会が数多く寄せられ、2015(平成 27)年度の短期研修受入数は 196 名と大幅に増加した。また、参加者の出身国も広がりを見せている。今後受入数は同程度で推移すると見られるが、参加者が帰国した後の波及効果により、申請者の背景はより多様化する

第8章 社会連携・社会貢献

るものと見込まれる。

(資料8-42 外国人短期研修受入数の推移(過去5年間))

(資料8-43 短期研修者の所属機関(国/地域)の多様化)

《各学部及び研究科における社会連携活動について》

1) 公開講座・シンポジウム等の開催、学校施設の開放、見学会の実施、ボランティア活動等、様々な分野で積極的に展開している。

(資料8-44 各学部・研究科・附属病院における社会連携の取組み)

2) 最近の全学的な取組事例は、次のとおりである。

(1) 「国際教養学部開設記念シンポジウム～今、日本人が学ぶべき国際教養～」を2015(平成27)年5月に本郷・お茶の水キャンパス有山登記念館講堂で開催した。元国連事務次長の明石康氏及びジャーナリストで東京工業大学教授の池上彰氏を講師に招き、国際教養学部1年生、一般受講者及び本学関係者を対象に講演頂いた。

(資料8-45 順天堂ホームページ「国際教養学部開設記念第1回シンポジウム大盛況となる」)

(2) 順天堂大学/JM00C 無料オンライン講座「医学・医療の昔・今・これからー生命進化と疾病ー」を2015(平成27)年6月に開講した。JM00C初の医学・医療講座となる本講座では、病を持った一般の人はもちろん、医学医療に携わっている人、医療リテラシーを高めたい人、及びこれから医療・医学の分野に進みたいと思っている人を対象とした学習内容となっている。本講座の具体的なテーマは、「我が国の医学と西洋医学の発展の歴史、病はどのようにして起こるのか」、「糖尿病のメカニズム」、「神経の病気の要因や治療・予防法」、「外科学の最先端：ロボット手術の現状と将来像」である。2015(平成27)年9月には、本郷・お茶の水キャンパスの教室において、本講座の受講者を対象とした反転授業を開講した。

(資料8-46 順天堂大学 JM00C 無料オンライン講座のご案内)

2. 点検・評価

[基準8]

大学は、社会との連携と協力を配慮し、教育研究の成果を広く社会に還元しなければならない。

●基準8の充足状況

地域社会との連携は「社会連携推進室」、研究機関との連携は「研究推進センター」及び「臨床研究支援センター」、国際交流・国際化は「国際交流センター」がそれぞれ中心的な役割を果たし、全学を挙げて推進している。自治体との連携協定締結も進み、教育研究成果を社会に還元する各種取組みが行われている。公開講座・シンポジウム開催や講師派遣も積極的に行われている。他学、学外研究機関、企業等との連携も進み、特許出願等の成果が出ている。また、医学部附属病院を通じた地域への貢献も果たしている。以上のことから、同基準を満たしている。

①効果があがっている事項

《社会連携について》

1) 社会貢献については、本学の特性を活かし、研究成果の社会的な還元という観点から公開講座やシンポジウム・学術講演会等を数多く開催している。医学関係では最新の医療情報や技

術等の提供があり、スポーツ関係では子供やスポーツに興味のある青少年等のための運動プログラム等を行い、また看護関係では市民参加型の体験学習等を行っている。社会連携推進室及び各キャンパスの社会連携推進室分室が整備されたことにより、自治体との連携において、よりスムーズな窓口対応が可能となった。また、社会連携事業に関して、社会連携推進室のホームページより、情報発信を積極的に行っている。

(資料8-47 社会連携推進室ホームページ)

- 2) 2020 (平成 32) 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、自治体をはじめとする関係団体等との連携を含め、健康総合大学として全学的に取り組んでいる。スポーツ健康科学部のさくらキャンパスが、2015 (平成 27) 年 8 月に開幕する世界陸上競技選手権大会北京大会に出場する米国チームの事前キャンプ地となり、8 月 15 日に同キャンパス陸上競技場において印西市との共催による「Juntendo International 2015」を開催した。本イベントでは、事前キャンプで来日中の海外トップ選手を多数招いた国際競技会「International Challenges」も実施した。各国代表選手を集めた競技会を大学が開催するのは国内初の試みであり、米・豪・ニュージーランド及び日本の代表選手を含む総勢 124 名が参加し、競技会開催中の通訳ボランティアを本学国際教養学部の学生が務めた。また、地元・印西市内の小学生を対象にしたオリンピックによるかけっこ教室や、印西市・佐倉市・成田市の中学生を対象としたリレー大会も同日開催した。

(資料8-48 順天堂ホームページ 「世界陸上直前に各国チームが集結！大学初の国際競技会を学生が運営して開催」)

《産学官連携について》

- 1) 文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」において、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、(株)日立製作所、(株)ニッピと連携し宇宙科学、医学、スポーツ科学の要素を取り入れ、病気や加齢に伴い移動能力が低下する「ロコモティブシンドローム」の未然防止に向けた介入方法を開発に取り組んでいる。加齢に伴い失われた機能を取り戻す、すなわち、「ロコモ時計」の巻き戻しにより、人々が最後まで自分の足で動ける社会を目指している。2015 (平成 27) 年度、トライアルから立命館大学との連携拠点に昇格し、新たに参画企業として東急不動産株式会社、大日本印刷株式会社、花王株式会社が加わった。
- 2) 独立行政法人理化学研究所との基本協定に基づき実施しているがんバイオマーカー共同研究の成果として、2015 (平成 27) 年度に特許 1 件を共同出願した。この他、現在は論文 1 報が投稿されている。第 3 回理研・順天堂共同研究発表会を 2015 (平成 27) 年 8 月 1 日に開催して研究成果を発表し、共同研究者間の情報共有を行った (於 理化学研究所 横浜キャンパス)。参加者は 69 名であった。

(資料8-49 順天堂ホームページ 「第3回 理研・順天堂共同研究発表会を開催」)

- 3) 株式会社日立製作所との連携基本協定に基づき実施している共同研究では、論文 2 報掲載 [Makino S et al. Evaluation of uterine blood flow: a new method using contrast-enhanced ultrasound. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2015 Aug;191:143-144. doi: 10.1016/j.ejogrb.2015.04.009. Epub 2015 Jun 4.], [Aurelien K, et al. High-Resolution MRI and Three-Dimensional Imaging of Cleared Mouse Brain: A Preliminary Microstructural Study in a Mouse with callosal agenesis. Magn Reson Med Sci.

第8章 社会連携・社会貢献

2015;14(2):159-62.]、1 報受理[Kamagata K, et al. Quantitative histological validation of diffusion tensor MRI by two-photon microscopy of cleared mouse brain. Magn Reson Med Sci(accepted)] となっている。また、昨年度実施した第 4 回順天堂大学・日立研究連携ワークショップ発表課題のうち 5 題の抄録を順天堂醫事雑誌 (Juntendo Medical Journal Vol. 60(2014) No. 6, 523-527) に掲載している。今年度より、R&D 分科会、国際交流分科会、人材交流分科会を軸とする新たな体制のもと、包括連携活動を推進している。R&D 分科会活動としては、上記共同研究の他、日立研究者による順天堂医院循環器内科における医療現場調査を 2015 (平成 27) 年 11 月～2016 (平成 28) 年 2 月に行い、3 月 9 日に循環器内科において調査結果を報告した。日立社内で調査による医療現場ニーズの理解に基づき、共同研究テーマや開発技術のアイデア創生を検討する予定である。国際交流分科会・人材交流分科会活動については 2015 (平成 27) 年 10 月 16 日に順天堂大学留学生による日立医療機器ショールームの見学と留学生 9 名 (中国、インド、コンゴ) に対する自国医療ヒアリングを行った。2015 (平成 27) 年 10 月 22 日に中国政府関係者 (中国発改委) 20 名によるさくらキャンパスの見学が行われた。

- 4) 花王株式会社との研究包括協定に基づく取り組みとして、2015 (平成 27) 年 11 月 9 日と 2016 (平成 28) 年 2 月 5 日に第 1 回・第 2 回花王技術説明会を本郷・お茶の水キャンパスに於いて本学の研究者を対象に実施した。参加者は各 75 名と 63 名であった。また、2016 (平成 28) 年 2 月 17 日に浦安キャンパス第 1 回花王技術説明会を医療看護学研究科の研究者を対象に実施し、参加者は 39 名であった。

(資料 8-50 順天堂ホームページ 「順天堂・花王連携 第 1 回花王技術説明会を開催」)

(資料 8-51 順天堂ホームページ 「順天堂・花王連携 第 2 回花王技術説明会ほかを開催」)

《他学との連携について》

- 1) 2015 (平成 27) 年 9 月 15 日に全国体育系大学学長・学部長会 (本学学長が同会会長) 主催のシンポジウム「2020 年に向けキック・オフ」を本郷・お茶の水キャンパス有山登記念館講堂で開催した。
- 2) 早稲田大学との共同研究では建築学と医学の融合を図るとともに、医療現場の視点も取り入れて研究を進めてきたことから、より実用的な成果を上げることができた。順天堂医院では、国内初となる非常用エレベーターを避難誘導に活用できる「高層病棟避難安全システム」の適用を受けたほか、エコ技術、感染制御技術、病室環境改善および医療施設の災害対策などで多くの成果を上げた。これらの研究成果を社会に還元すべく、早稲田大学との共催により次世代環境医療シンポジウムを開催してきた。医療、建築、製造業界を中心に参加者は両シンポジウムとも 350 名を超えた。B 棟 I 期竣工後もワーキンググループにおいて感染制御技術などの共同研究を進めている。

開催時期	テーマ
2011 (平成 23) 年 6 月	エコロジーと耐震強度を考えた新世代病院と非常時への備え
2013 (平成 25) 年 1 月	安心と癒しとエコロジーに配慮した最新の病院 —最新の ICT 化病院とその理想像—

(資料 8-52 2014 (平成 26 年) 2 月 21 日 (金) 東京新聞「東京消防庁新基準適用第 1 号

順天堂の新病棟で訓練」)

(資料8-53 次世代環境医療研究会 2013 年度報告書)

(資料8-54 第1回次世代環境医療シンポジウムポスター)

(資料8-55 第2回次世代環境医療シンポジウムポスター)

(資料8-56 第3回次世代環境医療シンポジウムポスター)

(資料8-57 第4回次世代環境医療シンポジウムポスター)

《国際交流について》

- 1) 国際交流センター長を中心として、その下で本学の国際交流に関する運営母体の JIIC 教育委員会が毎月開催されている。委員会では、審議事項のほかに、定型的な報告事項として、国際交流協定校情報、来訪団体、海外からの医学部短期研修、留学生状況、奨学金、英語版 HP、文化教育活動、病院診療支援状況等の報告等を行っている。本学の国際交流に関する運営母体として有効に機能している。

《各学部及び研究科における社会連携・社会貢献活動について》

- 1) 大学院医学研究科では、2015（平成 27）年度の博士課程入学志願者の 3 割以上が社会人であり、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」採択により 2013（平成 25）年度に新設された「次世代先導的がん研究者養成コース」は、がん治療認定医の申請資格の単位の一部として認められるなど、すでに社会の中で活躍する医師の生涯学習の機会として十分な役割を果たしている。「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」による市民公開講座や国際シンポジウムには、多数の参加者を得ており、教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動を行っていると言える。また、連携大学院協定を締結している 3 研究機関より、2015（平成 27）年度も 16 名の入学者があった。毎年度、各研究機関から入学者を迎え入れており、医学教育と医学研究の連携に貢献できている。
- 2) スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科では、社会連携推進室分室の設置により、周辺自治体との連携が進んでおり、市町村との公開講座・学術支援・スポーツイベント・学生ボランティア派遣等の活動が増加している。中学校・高等学校の部活動に対する体育施設開放に加えて、2011（平成 23）年度からは地域の小学生を対象としたサッカー・体操・バレー等の教室を開講しており、好評を博している。
- 3) 医療看護学部・大学院医療看護学研究科では、定期的に健康増進や保健衛生に関するテーマで公開講座、オープンスクールを開催し、教育研究の成果を社会に還元している。
- 4) 保健看護学部では、2014（平成 26）年 1 月、本学部と三島市との間で、文化・医療・教育・学術など様々な面で相互に協力し、地域の活性化、産業の発展を目的として連携協働協定を締結することができた。学生も、積極的に地域に関わろうという意識をもってボランティア活動に参加している。
(資料8-58 三島市との協定書)
- 5) 国際教養学部では、2015（平成 27）年 8 月、本学さくらキャンパスで行われた世界陸上競技選手権大会北京大会に出場する米国チームの事前キャンプにおいて、1 年生 15 名が通訳ボランティアとして参加した。

②改善すべき事項

《社会連携について》

- 1) 社会連携事業についての窓口が明確となり、連絡協議会等、各自治体の要望の吸い上げの場も増えたが、地域課題はどの自治体も似ており、複数の自治体から同内容についての事業協力の依頼がくる。今後は類似した事業（講座）については、統一して行う等の工夫が必要である。

《産学官連携について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究の進捗・研究成果として出願した特許については、実用化には至っていない。論文発表を通じての社会への研究成果情報の提供は、まだなされていない。
- 2) 株式会社日立製作所との連携共同研究の進捗・研究成果については、2 共同研究から論文 2 報が発表され、1 報が受理されている。この他、5 題の抄録を順天堂醫事雑誌に掲載しているが、他の共同研究からは、未だ論文を通じて社会への研究成果情報の提供はなされていない。また、実用化に至る成果も得られていない。
- 3) 花王株式会社との研究包括協定に基づく具体的な共同研究テーマが定まっていない。

《国際交流について》

- 1) 英語版 HP の拡充に加え、協定校との共同プログラム実施によって、多くの短期留学生・外国人研究者が本学に来訪している。それに伴い、宿舍の確保が困難な状況も生じていることから、新規来訪希望者の受入時期や人数についてより一層慎重に調整する必要がある。
- 2) 在籍中の留学生・外国人研究者について、サービスの充実を進めているが、今後は離籍した後のフォローアップが重要となる。離籍後の連絡先確認に加えて、当センターからの連絡（近況報告等）を行い、更なる関係性の構築を進める必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

《社会連携について》

- 1) 本学の特性を活かし、引き続き、公開講座・シンポジウム・学術講演会等を開催することで、教育・研究成果の社会への還元を図っていく。なお、小・中学生のアスリート育成及び高齢者の健康増進・支援に対するニーズが高いことから、全学的な事業の拡大を目指す。また、社会連携推進室の機能強化によって、従来の事業内容の充実、規模の拡大及び新規連携事業への取組み等の推進を担い、人々の健康維持・増進・回復に寄与すべく、広く社会に還元できる体制の確立を目指す。
- 2) 2015 年世界陸上競技選手権大会北京大会の米国代表チーム事前合宿に関する誘致活動は、千葉県主導のもと、本学、成田市及び佐倉市が連携して成功した。コンソーシアム（県・市・大学の連携）による誘致実績は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた新たなスタイルであり、同様の形式での誘致活動を今後も積極的に展開していく。こうした国際的なスポーツイベントへの参画については、学生教育の絶好の機会ととらえ、スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科からはトレーニングや運営補助担当として、また、国際教養学部からは通訳ボランティアとして、学生を派遣していきたい。

《産学官連携について》

- 1) 文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」の研究開発プロジェクトとして、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、(株)日立製作所、(株)ニッピと連携し、全国民が健康かつ終身現役で能力を発揮し、自己実現と共に社会に貢献できる「幸福寿命社会」の実現を目指してきた。2015 (平成 27) 年度は、これまでの 3 社に加え、新たに東急不動産株式会社、大日本印刷株式会社、花王株式会社が当プロジェクトに参画した。今後は、これらの企業との研究開発の成果を実践するため、本学と連携協定を締結している白井市 (千葉県)、成田市 (千葉県)、東郷町 (愛知県) などでフィールド研究を行い、製品化、システム化など具体的な社会実装へ向かう取組みを実施し、革新的なイノベーションを産学連携で実現することを目指す。
- 2) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究において新規出願した特許については、国際出願 (PCT) を目指す。既に国際出願 (PCT) した特許について、発明内容と実用化の可能性を評価し、各国移行の可否を判断する。研究進捗の結果、新たな知見が得られた研究については、更なる特許出願を行う。共同研究発表会については、研究の進捗を踏まえ、より効果的な形式の基に開催する。
- 3) 株式会社日立製作所との共同研究では、新しい連携推進体制の基に R&D 分科会で共同研究の評価を行い、進めるべき研究の絞り込みを行う。国際交流分科会、人材交流分科会で活動方針を検討している。
- 4) 花王株式会社とは、技術説明会の際に実施したアンケートに基づき、研究包括協定に基づく共同研究の具体的なテーマを選定し取組みを進めていく。

《他学との連携について》

- 1) 全国体育系大学学長・学部長会のメンバーとして、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた取組みや体育系大学のスポーツ活動に関する調査等を進めていく。
- 2) 順天堂医院では、新病棟の竣工により、建築に関する共同研究は各グループの研究の総括を行っている。基礎研究部会は今後も研究を継続していく。感染環境制御 RG では透析病棟等の室内環境の測定を建替前から行っており、新病棟との比較が可能となる希少な研究データの蓄積が進んでいる。また、共同研究の成果を新病棟に導入していることから、技術検証を行うなど今後の発展が期待できる。

《国際交流について》

- 1) 英語版 HP の更新作業を進めたことから、海外からの照会数が増加し、その結果として短期研修受入数が 200 名に迫るまでになった。こうした外部からの関心の高まりを受け、JUIC 教育委員会においても、今後、教職員や学生の国際交流に関する事項について、教育の質を維持するため、各受入講座の負荷について考慮していく。また、国際レベルでの科学研究や共同研究に関する事項について、国際交流の観点から積極的に関与していくことを目指す。

《各学部及び研究科における社会連携・社会貢献活動について》

- 1) 大学院医学研究科では、引き続き、ホームページや募集要項、研究科説明会等において、社会人入学者の増加に向けた周知を図る。「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」におけるシンポジウム等の開催にあたっては、海外の教員の招聘、テレビ会議システムによる海外の教育研究機関との共同開催等により、国際化をより推進するとともに、幅広い方の参加を得られるよう適切な周知を引き続き行う。また、今後も継続して連携大学院制度を推進

第8章 社会連携・社会貢献

と合同で公開講座やシンポジウム・学術講演会・スポーツイベント等の行事を積極的に開催するとともに、地域の小学生を対象とした、陸上・サッカー・体操・バレーの各教室を継続して開催することで地域に貢献していく。

- 3) 医療看護学部・大学院医療看護学研究科では、公開講座・オープンスクールの開催回数を増やし、地域住民の健康増進、保健衛生に貢献していく。
- 4) 保健看護学部では、三島市との連携協働協定に基づき、連携項目を増やすべく、検討・協議を進めるとともに、地域との連携が学生教育に活かされる仕組みづくりを進めていく。
- 5) 国際教養学部では、通訳ボランティアでの貴重な経験を活かし、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて急速に需要が見込まれる通訳業務・ボランティアに貢献できる人材養成を進めていく。

②改善すべき事項

《社会連携について》

- 1) 現在、個別で行われている連絡協議会等をいくつかの自治体と合同で開催する等、近隣自治体での意見交換の場を設け、類似事業の統一や新たな実施方法を模索していく。

《産学官連携について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究の実用化については、がんバイオマーカー特許情報を秘密情報保持契約下に診断薬メーカーに開示し、診断薬の開発を目指す。論文発表については、引き続き共同研究発表会を開催し、共同研究者間の情報共有と研究促進を図るとともに、研究者との研究相談等を通じて、論文発表を促していく。
- 2) 株式会社日立製作所との連携共同研究については、共同研究を絞り込むとともに研究促進を図り、論文発表を促していく。研究の実用化については、事業性の評価を行い、日立事業部での実用化・製品化へのステップアップを目指す。
- 3) 花王株式会社との連携では、連携推進体制を強化する。

《国際交流について》

- 1) 新たな宿舎の確保・効率的な案内方法の構築、日常生活のサポートといった、受け入れ環境の一層の改善を関係各所と調整していく。
- 2) 留学生・外国人研究者が離籍した後のフォローアップの強化として、各講座・研究室との情報共有を行いながら、メーリングリストを活用し、年に数回本学の近況報告ができるようにする。

第 8 章 社会連携・社会貢献

4. 根拠資料

根拠資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
資料 8-1	社連 8-1	学校法人順天堂社会連携推進室運営規程
資料 8-2	社連 8-2	社会連携推進委員会議事録
資料 8-3	社連 8-3	社会連携推進室ホームページ「学長からのご挨拶」
資料 8-4	研推 8-1	順天堂大学産学官連携ポリシー
資料 8-5	研推 8-2	順天堂大学研究推進センター運営内規
資料 8-6	臨支 8-1	順天堂大学臨床研究支援センター運営内規（既出 資料 7-21）
資料 8-7	総務 8-1	連携協定締結先一覧
資料 8-8	国交 8-1	順天堂大学国際交流センター運営規程
資料 8-9	国交 8-2	順天堂大学 国際化ビジョン
資料 8-10	総務 8-2	各学部・研究科の地域社会・国際社会への協力方針
資料 8-11	社連 8-4	自治体との連携内容一覧
資料 8-12	研推 8-3	順天堂ホームページ 「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」 http://www.juntendo.ac.jp/approach/collaboration/coi.html
資料 8-13	臨支 8-2	順天堂ホームページ 「順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定」
資料 8-14	臨支 8-3	順天堂ホームページ 「順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結」
資料 8-15	総務 8-3	順天堂ホームページ 「順天堂大学と公益財団法人笹川スポーツ財団によるスポーツボランティア養成事業に関する協定を締結」
資料 8-16	総務 8-4	順天堂ホームページ 「順天堂大学と花王が産学連携の研究包括契約を締結」
資料 8-17	総務 8-5	順天堂ホームページ 「学校法人順天堂とセントラルスポーツ株式会社が包括連携協定を締結」
資料 8-18	総務 8-6	順天堂ホームページ 「学校法人順天堂と東急不動産株式会社が包括連携協定を締結」
資料 8-19	総務 8-7	2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定式
資料 8-20	総務 8-8	平成 27 年度 事業報告書（既出 資料 2-2、資料 4-4-2、資料 7-9）
資料 8-21	臨支 8-4	臨床研究支援センター月例会議資料（2016 年 3 月）教育・研修・コンサルティング
資料 8-22	再編 8-1	学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書
資料 8-23	再編 8-2	次世代環境医療研究会組織図
資料 8-24	再編 8-3	共同研究契約書（エコ技術）
資料 8-25	再編 8-4	共同研究契約書（高層病院の安全）
資料 8-26	再編 8-5	共同研究契約書（病棟の避難）
資料 8-27	総務 8-9	順天堂ホームページ 「学校法人順天堂と学校法人女子美術大学が連携・協力に関する基本協定を締結」

第 8 章 社会連携・社会貢献

根拠資料No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
資料 8-28	総務 8-10	順天堂ホームページ 「順天堂大学と星薬科大学が学術交流に関する包括的連携協力の基本協定を締結」
資料 8-29	総務 8-11	順天堂ホームページ 「順天堂大学と立命館大学が学術交流協定を締結」
資料 8-30	総務 8-12	順天堂ホームページ 「理化学研究所およびカザン連邦大学と協力覚書を締結」
資料 8-31	総務 8-13	順天堂ホームページ 「順天堂大学と岡山大学が連携・協力に関する包括的協定を締結」
資料 8-32	総務 8-14	順天堂ホームページ 「順天堂大学と明治大学が包括協定を締結」
資料 8-33	総務 8-15	順天堂ホームページ 「順天堂大学と東京藝術大学が連携・協力協定を締結」
資料 8-34	総務 8-16	順天堂ホームページ 「昭和第一高等学校と教育連携協定を締結しました」
資料 8-35	総務 8-17	順天堂ホームページ 「神田女学園高等学校と教育連携協定を締結しました」
資料 8-36	国交 8-3	大学協力協定締結状況
資料 8-37	国交 8-4	講座・研究室を通じての紹介が可能な海外研修施設一覧(2015年版)
資料 8-38	国交 8-5	2011 2nd International Academic Joint Symposium Juntendo University-Peking University
資料 8-39	国交 8-6	第 6 回アジア太平洋メディカルフォーラムプログラム
資料 8-40	国交 8-7	東京医科歯科大学 順天堂大学 餅つき大会 案内
資料 8-41	国交 8-8	平成 27 年度 表敬訪問・行事一覧
資料 8-42	国交 8-9	外国人短期研修受入数の推移(過去 5 年間)
資料 8-43	国交 8-10	短期研修者の所属機関(国/地域)の多様化
資料 8-44	総務 8-18	各学部・研究科・附属病院における社会連携の取組み
資料 8-45	総務 8-19	順天堂ホームページ 「国際教養学部開設記念第 1 回シンポジウム大盛況となる」
資料 8-46	総務 8-20	順天堂大学 JMOOC 無料オンライン講座のご案内
資料 8-47	社連 8-5	社会連携推進室ホームページ
資料 8-48	総務 8-21	順天堂ホームページ 「世界陸上直前に各国チームが集結！大学初の国際競技会を学生が運営して開催」
資料 8-49	臨支 8-5	順天堂ホームページ 「第 3 回 理研・順天堂共同研究発表会を開催」
資料 8-50	臨支 8-6	順天堂ホームページ 「順天堂・花王連携 第 1 回花王技術説明会を開催」
資料 8-51	臨支 8-7	順天堂ホームページ 「順天堂・花王連携 第 2 回花王技術説明会ほかを開催」
資料 8-52	再編 8-6	2014 (平成 26 年) 2 月 21 日 (金) 東京新聞「東京消防庁新基準適用第 1 号 順天堂の新病棟で訓練」

第8章 社会連携・社会貢献

根拠資料No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
資料8-53	再編8-7	次世代環境医療研究会 2013 年度報告書
資料8-54	再編8-8	第1回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料8-55	再編8-9	第2回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料8-56	再編8-10	第3回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料8-57	再編8-11	第4回次世代環境医療シンポジウムポスター
資料8-58	保看8-1	三島市との協定書